

KAWASAKI STEEL GIHO

Vol.25 (1993) No.3

All-

川崎製鉄の総合エンジニアリング —起点は島，起点は都市—*

川崎製鉄技報
25 (1993) 3, 153-160

All-round Engineering by Kawasaki Steel Corporation —The Island and Town Construction as Starting Points—



要旨

川崎製鉄のエンジニアリング事業は、製鉄所建設をとおり培われ
た技術とノウハウを、製鉄所以外の町並み、住宅・休レク・福祉施設の建

技術の拡がりについてみると、まず上述の核となる技術の周辺技術として発展したものが多くある。最新の技術としては、最も進んだ

次に「リゾート開発における環境保全技術」と題する論文¹⁸⁾では、開発の在り方を世に問いつつ建設を進めて来たことを論じている。そのコンセプトは田舎側を限りの「自然環境」に設計した環境

3.3 今後の展開

以上、土木技術の歴史と現状について述べてきたが、今後の技術動向および課題については、各まきにあおるうとして、

塗装に関する水質の安全性の観点からノントール系のエポキシ樹脂塗料の開発が行われ、防食設計・施工の標準化必要性からマクロセル腐食防食指針が制定されている。

並行して独自の技術開発が行われてきた。特に

マネジメント技術を発揮しながらプロジェクトを遂行している。

内外での地歩を築いていかねばならない。

5.2 鉄構

1987年以降の内需拡大により、鉄骨需要が増大し、構造種別においても初めて鉄骨造による着上床面積が木造のそれを上回り、空

6 建材分野

当社建材分野では、移り変わる社会のニーズに合わせて、鉄鋼メー

【表 2】 鋼管指し（河川小規模河川）の「ユニバーサル指し」は鉄鋼（非鉄鋼）材では、空費をとおす（学）鉄鋼の

ル護岸」などがある。その他、構造物の耐久性向上、メンテナン 中でも供給者が高炉メーカー、専門メーカー、中小メーカーかによ

材料としてロックウールが広く使われているが、施工の合理化など ー。また、建材技術は、当社の土木・建築分野のエンジニアリング

化が求められており、その方向での商品開発を鋭意進めている。

6.2.3 システム建材

システム建材は、都市型の中小ビルを対象として、個々の部位建材を組み合わせグループ製品の総合化を図ったもので、設計から施

あり、その発展に尽力しなければならないと考えている。

7 おわりに